

経営体カタイプ		得点範囲	10段階による格付
健康優良型	A	90点以上	① 安全性は最高水準にあり、財務内容は極めて優秀である。 ② 経営環境の変化を想定しても、債務償還の確実性は最高水準にある。
	B	80～89点	① 安全性は高い水準にあり、財務内容に懸念は全くない。 ② 経営環境の変化を想定しても、事業が安定的に推移すると思われる。
体力充実型	A	70～79点	① 良好先としてかなり魅力的であり、財務内容は安定した状態にある。 ② 経営環境が大きく変化した場合、安全性を低下させるリスクの可能性がある。
	B	60～69点	① 良好先として確実性は高いが、財務内容に若干心配な要因が出つつある。 ② 経営環境が変化した場合、安全性を低下させるリスクの可能性が高くなる。
体力維持型	A	50～59点	① 当面の債務償還能力に不安はないが、財務内容に心配な要因がある。 ② 経営環境が変化した場合、安全性に十分な注意を要する。
	B	45～49点	① 当面の債務償還能力に不安はないが、財務内容を直視して十分に検討する。 ② 経営環境が変化した場合、債務履行の確実性に十分な注意を要する。
体質改善型	A	40～44点	① 債務償還能力に大きな不安はないが、財務内容の確実性の維持に不安が生じている。 ② 経営が変化し、安全性の維持について懸念が生じている。
	B	30～39点	① 債務不履行に確実に陥るわけではないが、返済の確実性や安全性に不安がある。 ② 経営環境は厳しく、将来的な安全性に不安が生じている。
体力変革型	A	20～29点	① 債務償還についての懸念要因が顕在化しつつあり、不安が多くなっている。 ② 厳しい経営状況にあると考えられ、将来的な安全性に重大な懸念がある。
	B	19点以下	① 債務償還について大きな危険性及び不安要因が認められている。 ② 経営状況はかなり厳しい状況と考えられ、経営が行き詰まる可能性が否定できない。

御社の同業態比較では

攻める力 … 収益性・生産性・成長性

守る力 … 資金性・安定性・健全性

総合得点

同業態平均

50 点

御 社

66 点

分析指標		分析項目	分析値	得点	分析値	得点
収益性	①総資本経常利益率	投下資本の利益貢献度	-1.8	50	1.4	50
	②付加価値率	顧客満足度の価値	39.9	50	17.6	10
	③売上高営業利益率	本業の営業活動の利益率	-3.0	50	2.0	60
	④売上高経常利益率	経営活動の利益率	-2.7	50	0.8	50
	⑤売上高支払利息率	金利負担の効率性	2.0	50	0.3	100
				50	△	54
生産性	①一人当たり付加価値	一人当たり正味稼ぎ高	6,700.0	50	7,921.2	60
	②一人当たり営業利益	一人当たり本業活動成果	230.0	50	898.2	70
	③一人当たり経常利益	一人当たり経営活動成果	215.0	50	339.2	50
	④労働分配率	人件費と稼ぎ高のバランス	63.9	50	36.1	100
	⑤固定資産投資効率	固定資産の利益貢献度	94.7	50	313.6	100
				50	○	76
資金性	①総資本回転日数	投下資本の売上貢献度	359.5	50	196.7	100
	②受取勘定回転日数	売上代金の回収の早さ	76.9	50	39.4	100
	③棚卸資産回転日数	棚卸資産の足の早さ	39.5	50	63.1	30
	④固定資産回転日数	固定資産の売上貢献度	157.7	50	20.5	100
	⑤支払対受取回転日数比	回収と支払のバランス	1.4	50	1.3	50
				50	○	76
安定性	①経営安全率	経営環境への対応力	-4.1	50	0.0	50
	②借入金安全率	自己資本と借入額のバランス	329.0	50	357.0	50
	③債務償還可能年数	債務償還できる力の強さ	16.1	50	17.2	50
	④借入月商比率	売上高と借入額のバランス	4.3	50	4.2	50
	⑤預金対借入金比率	借入返済の余裕度	35.4	50	32.6	50
				50	△	50
健全性	①自己資本比率	企業生命力の強度	17.0	50	18.6	50
	②固定比率	自己資本の投資充当度	187.0	50	51.9	100
	③固定長期適合率	長期資金の投資充当度	127.0	50	14.8	100
	④流動比率	短期的支払能力	117.9	50	259.4	100
	⑤当座比率	現在の支払能力	89.9	50	116.7	70
				50	○	84
成長性	①売上高増加率	売上高の伸び	-4.0	50	12.7	80
	②付加価値増加率	稼ぎ高の伸び	-3.4	50	-3.2	50
	③営業利益増加率	本業成果の伸び	-11.3	50	-29.6	40
	④経常利益増加率	経営成果の伸び	-8.4	50	-66.9	30
	⑤自己資本増加率	自己資本力の強化度	-2.1	50	7.0	70
				50	△	54

※ 同業態平均の数値は、（2014年 12月）時点のものです。

※ ランク比較 上…○、同…△、下…●

6要素からみた強味・弱味

攻める力 … 収益性・生産性・成長性

守る力 … 資金性・安定性・健全性

	注意する項目(1~3)	中程度の項目(4~6)	優良な項目(7~10)
収益性	付加価値率	総資本経常利益率 売上高営業利益率 売上高経常利益率	売上高支払利息率
生産性		一人当たり付加価値 一人当たり経常利益	一人当たり営業利益 労働分配率 固定資産投資効率
資金性	棚卸資産回転日数	支払対受取回転日数比	総資本回転日数 受取勘定回転日数 固定資産回転日数
安定性		経営安全率 借入金安全率 債務償還可能年数 借入月商比率 預金対借入金比率	
健全性		自己資本比率	固定比率 固定長期適合率 流動比率 当座比率
成長性	経常利益増加率	付加価値増加率 営業利益増加率	売上高増加率 自己資本増加率

6要素による診断

(ここが大事)

目次

6要素診断

- 経営体力診断の見方
- 6要素からみた傾向
- 分析値測定推移表

各要素の解説

- [収益性] について
- [生産性] について
- [資金性] について
- [安定性] について
- [健全性] について
- [成長性] について

診断活用データ

- ・ 基本データ
- ・ 貸借対照表
- ・ 損益計算書

6 要素診断

経営体力診断の見方

● 6要素による診断

収益性	… 経営活動で本当に儲かっているか
生産性	… 能率よく成果があがっているか
資金性	… 投下資本の回収は効率よく行われているか
安定性	… バランスよく経営がなされているか
健全性	… 資金の調達・運用形態は良好か
成長性	… 業績は順調に伸びているか

● 業種と診断方法

1. 業種について

- ① 卸売業
- ② 小売業
- ③ サービス業
- ④ 製造業
- ⑤ 建設業
- ⑥ 運輸業
- ⑦ 飲食業
- ⑧ その他

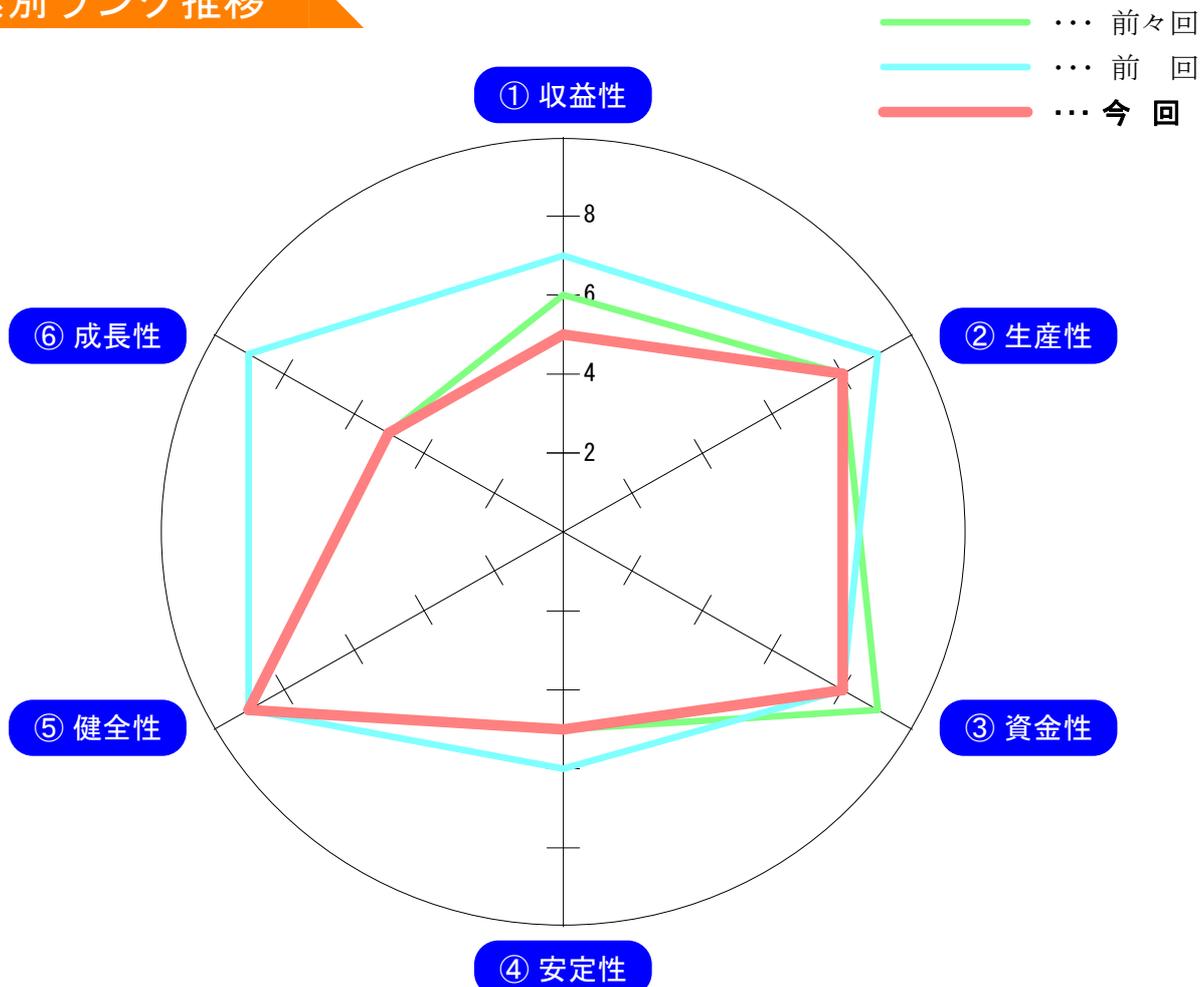
御社は、卸売業の
製造卸業として、
同業種と比較して診断しています。

2. 診断の仕方

- ① 標準値について … 分析値測定表の「標準値」は、御社の該当する業種における平均的な数値です。
- ② ランクについて … ランクは10段階方式によります。上記の「標準値」をランク5とし、標準より良いか、悪いかにより、ランクが変わります。

6要素からみた傾向

要素別ランク推移



	① 収益性	② 生産性	③ 資金性	④ 安定性	⑤ 健全性	⑥ 成長性
前々回	6	8	9	5	9	5
前回	7	9	8	6	9	9
今回	5	8	8	5	9	5

今回の決算では

- ① [**収益性**] は、標準レベルで、前回に比してやや下降傾向にあります。
- ② [**生産性**] は、非常に良いものの、前回に比してやや下降傾向にあります。
- ③ [**資金性**] は、非常に良く、前回と同レベルを維持しています。
- ④ [**安定性**] は、標準レベルで、前回に比してやや下降傾向にあります。
- ⑤ [**健全性**] は、非常に良く、前回と同レベルを維持しています。
- ⑥ [**成長性**] は、標準レベルで、前回に比してかなり下降傾向にあります。

[収益性]について

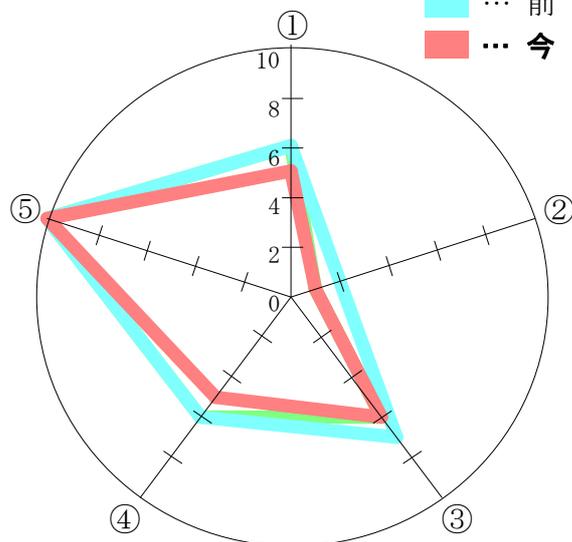
■ … 前々回
■ … 前回
■ … 今回

収益性とは？

ランク 5

会社が成長・発展していくために必要な収益が獲得できたかどうかをみているものです。

また、会社の存続・更なる飛躍が遂げられるよう、十分な収益をあげることができるかどうかの判断材料となります。



(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。

① 総資本経常利益率 (%)

経営活動の効率をみており、会社の実力がどれ位かを示します。

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times 100$$

② 付加価値率 (%)

売上をあげて、直接どれ位儲かるのか、商品力の強さを示します。

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{売上高}} \times 100$$

③ 売上高営業利益率 (%)

本来の営業活動によりどれ位儲かるのか、本業の実力を示します。

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

④ 売上高経常利益率 (%)

事業活動の成果を判定しており、事業活動全体としての実力を示します。

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

⑤ 売上高支払利息率 (%)

金融費用の負担がどれ位かをみており、金利負担の効率性を示します。

$$\frac{\text{金融費用}}{\text{売上高}} \times 100$$

■ 損益計算書

売上高	変動費 (商品原価・材料費・外注費)		
	付加価値	製造経費	
	②	販売管理費	
	⑤	営業利益	金融費用
	③		その他損益
④	経常利益		

■ 貸借対照表

他人資本	総資本
自己資本	

① 総資本経常利益率

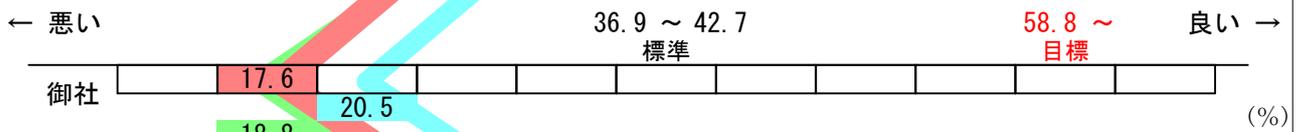
得点 50 ランク 5



事業に投入した資金がある程度効率的にまわり、その経営活動の利益（儲け）をそれなりにあげることができている。

② 付加価値率

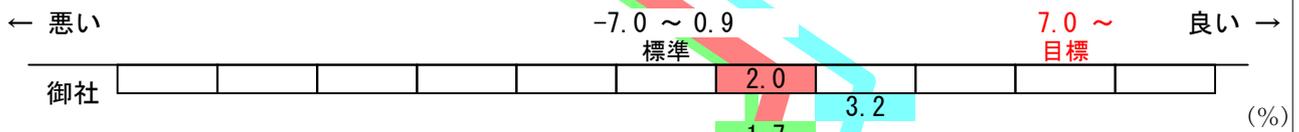
得点 10 ランク 1



売上とそれをあげるのに直接かかった仕入や外注費との割合は極めて悪く、会社発展のために必要な粗利はほとんど得られていない。

③ 売上高営業利益率

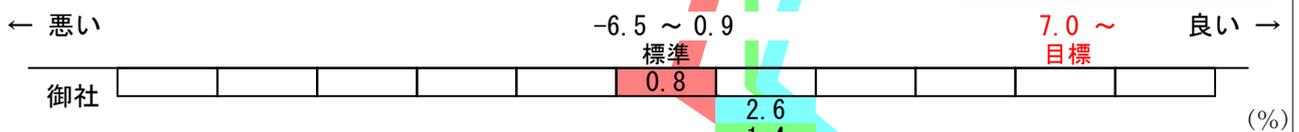
得点 60 ランク 6



売上高に対して営業活動の成果を素直にあらわす営業利益の割合はかなり良好で、商売繁盛に近づいている。

④ 売上高経常利益率

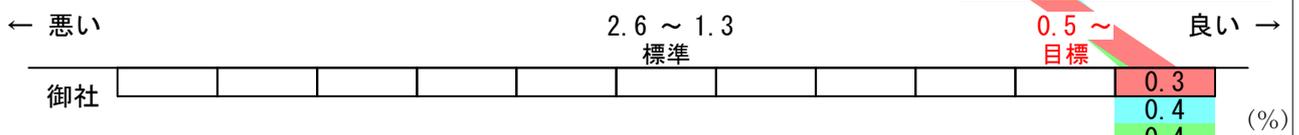
得点 50 ランク 5



この1年で稼いだ額と払うべきものを払った後の「儲け」の率は良好で、事業活動状況はある程度円滑になっている。

⑤ 売上高支払利息率

得点 100 ランク 10



売上高に対して支払利息及び割引料から受取利息を引いた実質の負担利息の割合は極めて低く、金融費用は利益を全く圧迫していない。

収益性を高めるための キーワード

1. 売上の増加、コストの低減
2. 販売管理強化、仕入方法の見直し
3. ムダな人件費、経費のカット
4. 経費予算はゼロから積み上げる
5. 体質をスリム化しムダな借入金を減らす

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

[生産性]について

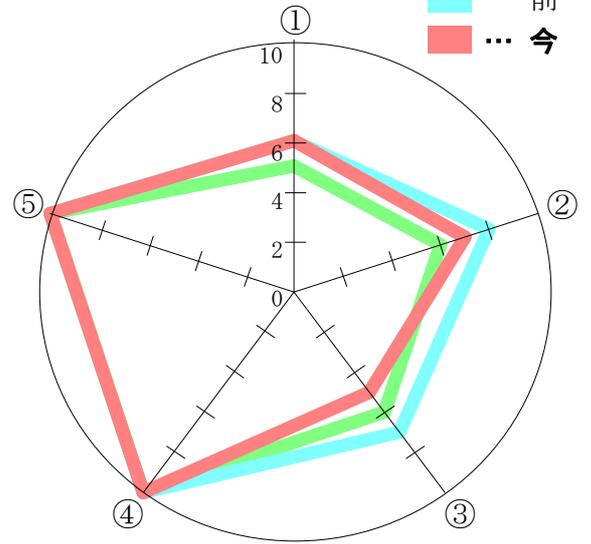
■ … 前々回
■ … 前回
■ … 今回

生産性とは？

ランク 8

経営資源と呼ばれる「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を会社の中に投入し、いかにローコストでスピーディーに商品を仕入れ（作り）、それをどれだけ効率よく提供し得たかをみるものです。

(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。



① 一人当り付加価値 (千円)

従事員一人当りの付加価値を稼ぎ出す力を示します。

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{従事員数}}$$

② 一人当り営業利益 (千円)

従事員一人当りの本業活動により得られる成果を示します。

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{従事員数}}$$

③ 一人当り経常利益 (千円)

従事員一人当りの事業活動全体により得られる成果を示します。

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{従事員数}}$$

④ 労働分配率 (%)

儲け（稼ぎ高）の中でいくら給与になっているかを示します。

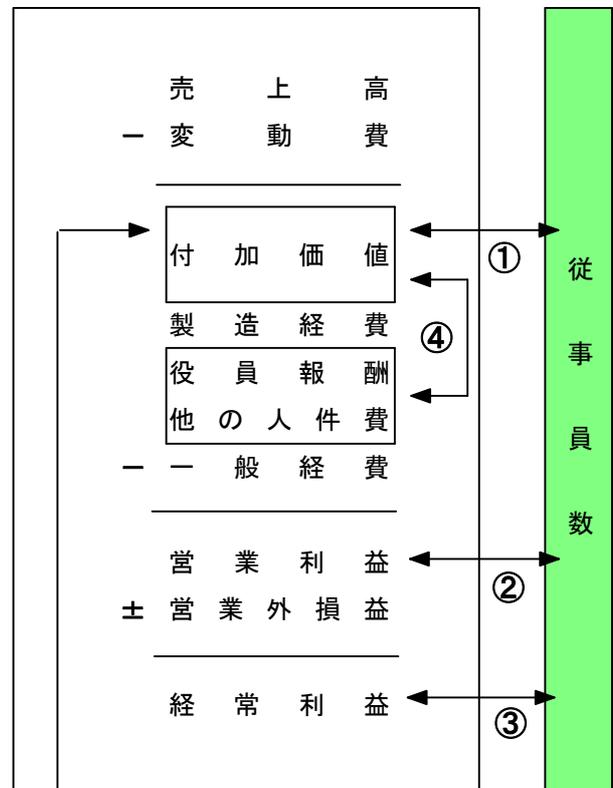
$$\frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}} \times 100$$

⑤ 固定資産投資効率 (%)

設備がどの程度効率よく稼いでいるかを示します。

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{固定資産}} \times 100$$

■ 損益計算書



■ 貸借対照表

流動資産	総 資 本
固定資産	
繰延資産	

[生産性]からみた分析値測定表

要素別
得点

76

ランク

8

① 一人当たり付加価値

得点 60 ランク 6



社員一人一人が効率的に稼ぐ仕事をそれなりにこなしており、会社の活性度状況は良好にあり、生産性が高くなっている。

② 一人当たり営業利益

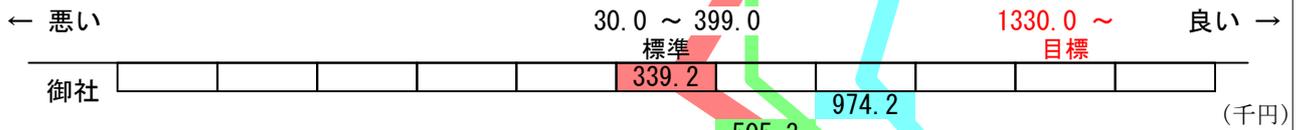
得点 70 ランク 7



収益の方が商売をするためにかかった費用に比べかなり大きく、社員一人当たりの営業活動の成果（稼ぎ）は良好になっている。

③ 一人当たり経常利益

得点 50 ランク 5



事業活動において社員一人一人の利益に対する貢献度はある程度あり、経営活動の実質的な稼ぎ状況はそこそこのものになっている。

④ 労働分配率

得点 100 ランク 10



会社が稼ぎ出した儲けに対し、社員等に対する人件費への配分は、極めて適正に行なわれている。儲けが経営全般に十分使われている。

⑤ 固定資産投資効率

得点 100 ランク 10



設備等の固定資産が効率良く稼働しており、その固定資産が生み出している利益（儲け）は高いものになっている。

生産性を高めるための
キーワード

1. 自動化・省力化設備の有効活用を図る
2. 非効率設備や遊休資産の減少努力をする
3. 必要最低限の人員配置の検討
4. 人件費は付加価値とのバランスで決める
5. リース方式での設備利用を検討する

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

[資金性]について

■ … 前々回
■ … 前回
■ … 今回

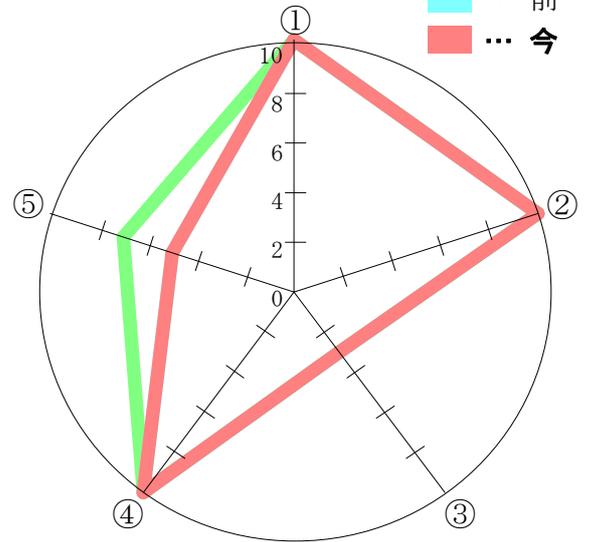
資金性とは？

ランク

8

経営活動に投下・運用した資本によって販売活動が行われ、それが売上によって回収されます。

そこで、投下した資本が無駄なく使われているか、そして、その回収速度はどうかをみているものです。



(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。

① 総資本回転日数 (日)

投下した資本の活用状況を表し、売上に結びついているかを示します。

$$365 \div \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$$

② 受取勘定回転日数 (日)

代金回収の早さを示します。

$$365 \div \frac{\text{売上高}}{\text{受取勘定}}$$

③ 棚卸資産回転日数 (日)

棚卸資産の足の早さを示します。

$$365 \div \frac{\text{売上高}}{\text{棚卸資産}}$$

④ 固定資産回転日数 (日)

設備の売上への貢献度を示します。

$$365 \div \frac{\text{売上高}}{\text{固定資産}}$$

⑤ 支払対受取回転日数比 (1対)

回収と支払のバランスを示します。

$$\left(365 \div \frac{\text{売上高}}{\text{受取勘定}} \right) \div \left(365 \div \frac{\text{仕入高}}{\text{支払勘定}} \right)$$

■ 損益計算書

売上高	変動費
	付加価値

■ 貸借対照表

現金預金		支払勘定	総資本
受取勘定	②	他の負債	
棚卸資産	③	自己資本	
その他流動資産			
固定資産	④		
繰延資産			

[安定性]について

■ … 前々回
■ … 前回
■ … 今回

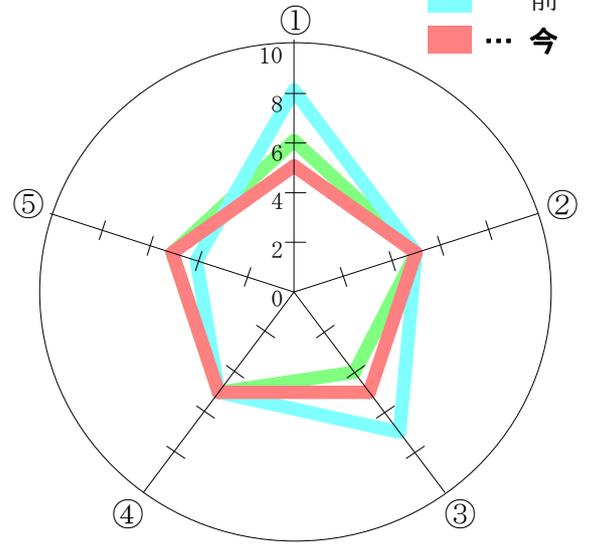
安定性とは？

ランク 5

バランスのとれた安定した経営が行なわれているかどうか、さらには、自社を取り巻く経営環境が変化しても耐える力がどれ位あるのかをみているものです。

常に片寄らない平衡感覚を保つことが成長・発展に不可欠です。

(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。



① 経営安全率 (%)

不況に耐える力(売上の余裕度)を示します。

$$\frac{\text{売上高} - \text{損益分岐点売上高}}{\text{売上高}} \times 100$$

② 借入金安全率 (%)

自己資本と借入金のバランスで財務の安全性を示します。

$$\frac{\text{借入金}}{\text{自己資本}} \times 100$$

③ 債務償還可能年数 (年)

今ある借入金が返済原資により何年で返済できるかを示します。

$$\frac{\text{借入金}}{\text{営業利益} + \text{減価償却費}}$$

④ 借入月商比率 (ヶ月)

借入債務が売上高の何倍かを表し、借入のバランスを示します。

$$\frac{\text{借入債務}}{\text{売上高 (月額)}}$$

⑤ 預金対借入金比率 (%)

当座の返済能力を示します。

$$\frac{\text{現金預金}}{\text{借入金}} \times 100$$

■ 損益計算書

売上高	変動費 (商品原価・材料費・外注費)	
	付加価値	製造経費
		人件費
		減価償却費
		他の経費
	営業利益	金融費用
		その他損益
経常利益		

① 損益分岐点売上高 (利益と損失の分かれ目)

■ 貸借対照表

現金預金	支払手形	総資本	
⑤	買掛金		借入債務
	借入金		
	割引手形		その他負債
②	自己資本		
	その他資産		

① 経営安全率

得点 50 ランク 5



赤字に転落するまでの売上高の余裕度がある程度持ち得ており、若干の余力を持った経営を遂行している。リストラに力を入れる。

② 借入金安全率

得点 50 ランク 5



自己資本と借入金のバランスはある程度保たれており、実質の借金は、それなりに抑えられている。今のうちに借金減少をする。

③ 債務償還可能年数

得点 50 ランク 5



ある程度会社の実力に見合った分だけの借金になっており、借入を返済するのに適した返済原資は、それなりに確保できている。

④ 借入月商比率

得点 50 ランク 5



ある程度会社の実力に見合った分だけの借金になっており、借入を返済するのに適した売上高はそれなりに得られている。

⑤ 預金対借入金比率

得点 50 ランク 5



現預金と借入金のバランスはある程度保たれており、実質の借金は、それなりに抑えられている。今のうちに借金減少をする。

安定性を高めるための キーワード

1. 売上重視から利益重視の経営へ転換
2. 借入金と返済原資のバランス
3. 借入金と固定性預金の相殺を検討する
4. 必要経費と不必要経費の区別の徹底
5. 収支分岐点・損益分岐点を常に考える

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

[健全性]について

■ … 前々回
■ … 前回
■ … 今回

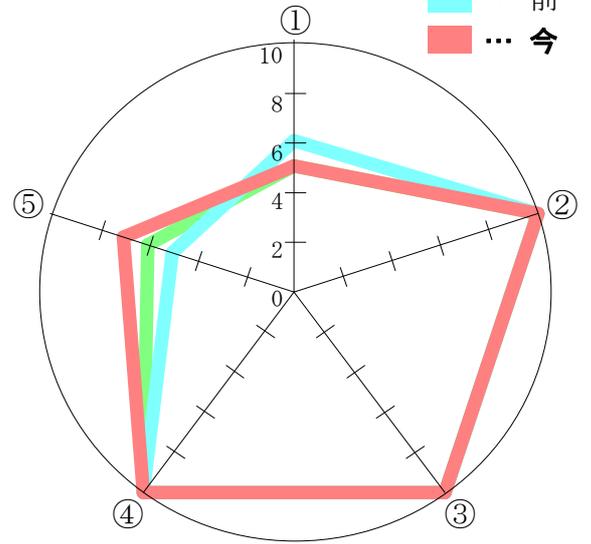
健全性とは？

ランク

9

会社の財政状態の良否、支払能力の程度をみているものです。

それは、会社を継続的に運営していくために必要な資金の出所・使われ方は適正か、必要な資金をいつでも調達できる体制になっているかどうかということです。



(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。

① 自己資本比率 (%)

自前の資本力の強度を示します。

$$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

② 固定比率 (%)

設備投資は自己資本で賄っているかを示します。

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$$

③ 固定長期適合率 (%)

設備投資は長期資本で賄っているか（無理はないか）を示します。

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債} + \text{引当金}} \times 100$$

④ 流動比率 (%)

現在の資金状態（流動性）を示します。

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

⑤ 当座比率 (%)

現在の支払能力を示します。

$$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

■ 貸借対照表

流動資産	当座資産	④	流動負債	総資本
	棚卸資産	⑤		
	他の流動資産			
固定資産	固定資産	③	固定負債	
			引当金	
	繰延資産		自己資本	
		②	①	

① 自己資本比率

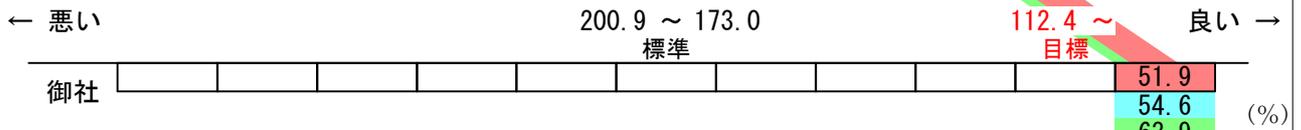
得点 50 ランク 5



会社が動かしている資金のうち、返済不要な純資産の部にある金額の割合は平均レベルにある。総資本のスリム化も大事。

② 固定比率

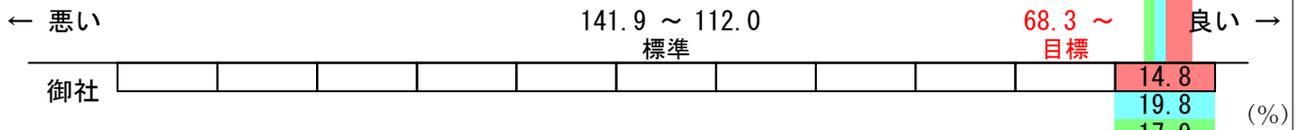
得点 100 ランク 10



長い間現金としては帰ってこない性質である固定資産を、利子の支払いの必要がない自己資本（自分のお金）で十分賄っている。

③ 固定長期適合率

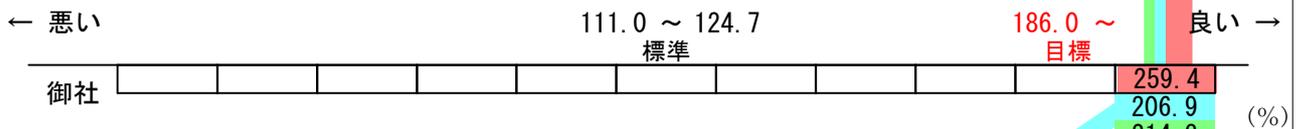
得点 100 ランク 10



返済不要な自己資本と1年を超えて返していく長期借入金で、設備等の固定資産をしっかりと賄っており、設備投資状況に無理がない。

④ 流動比率

得点 100 ランク 10



1年以内に支払うべき負債に対して、1年以内に現金化出来る資産を十分備えており、期限内に返す力をかなり持っている。

⑤ 当座比率

得点 70 ランク 7



1年以内に支払うべき負債に対して、今すぐ現金化し、支払えるお金をかなり備えている。（当座資産には在庫を含まない）

健全性を高めるための キーワード

1. 不良資産・遊休資産の圧縮を図る
2. 増資・内部留保策を計画的に推進する
3. 不良在庫やデッドストックを処分する
4. 売上債権と借入債務とのバランスをとる
5. 短期資金から長期安定資金への移動

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

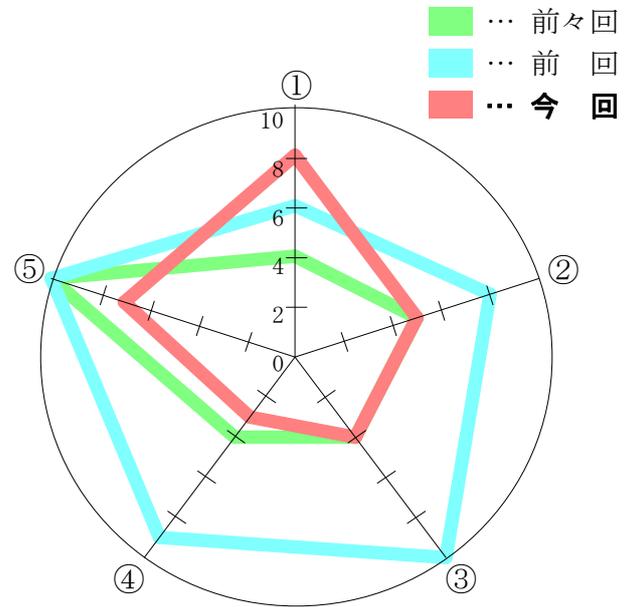
[成長性]について

成長性とは？

ランク 5

会社に投下された経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が毎年継続的に効率良く活用され、成長・発展に向けての活動がとられているかをみているものであり、会社のバネの強さを表しています。

(注) ランクは10段階で、ランク10が最高です。



① 売上高増加率 (%)

利益のモトである売上高の伸びを示します。

$$\frac{\text{当期実績} - \text{前期実績}}{\text{前期実績}} \times 100$$

② 付加価値増加率 (%)

生産・販売効率の伸びを示します。

$$\frac{\text{当期実績} - \text{前期実績}}{\text{前期実績}} \times 100$$

③ 営業利益増加率 (%)

本業の営業活動から生じた利益の伸びを示します。

$$\frac{\text{当期実績} - \text{前期実績}}{\text{前期実績}} \times 100$$

④ 経常利益増加率 (%)

日常的な経営活動から生じた利益の伸びを示します。

$$\frac{\text{当期実績} - \text{前期実績}}{\text{前期実績}} \times 100$$

⑤ 自己資本増加率 (%)

自前の資本力の伸びを示します。

$$\frac{\text{当期実績} - \text{前期実績}}{\text{前期実績}} \times 100$$

■ 損益計算書

売上高 ①	変動費 (商品原価・材料費・外注費)		
	付加価値 ②	製造経費	
		人件費	
		他の販管費	
	営業利益 ③	金融費用	
その他損益			
		経常利益 ④	

■ 貸借対照表

資 産	他人資本
	自己資本 ⑤

[成長性]からみた分析値測定表

要素別
得点

54

ランク

5

① 売上高増加率

得点 80 ランク 8



前年に比べて売上高を増やす取り組み効果が大きく表われており、売上高の増加にかなりつながっている。

② 付加価値増加率

得点 50 ランク 5



前年に比べて仕入・外注コスト削減がなされ、利益を増やす稼ぎをある程度なし得ている。

③ 営業利益増加率

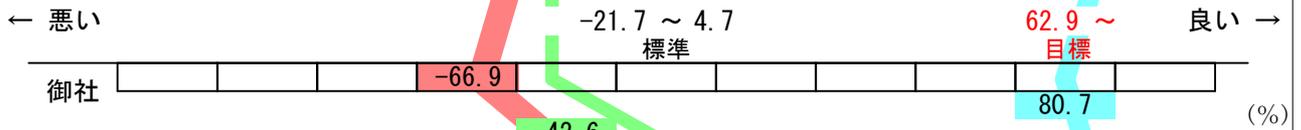
得点 40 ランク 4



本業活動が前年に比べ十分に回復しておらず、その結果、稼ぎ（利益）の伸びがあまりない。リストラも重要である。

④ 経常利益増加率

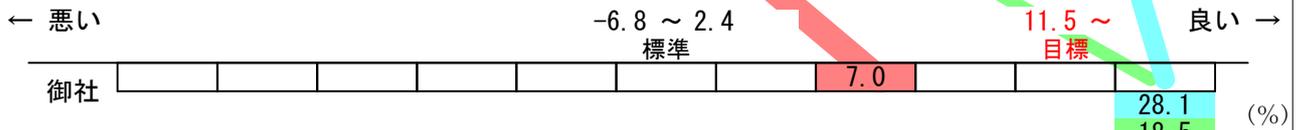
得点 30 ランク 3



前年に比べて経営活動に対する取り組み効果があまりなく、稼ぎ（利益）の伸びもある程度にとどまっている。

⑤ 自己資本増加率

得点 70 ランク 7



前年に比べて自己資本（純資産の部）の金額がある程度順調に伸び、企業体質も強くなってきている。更にスリム化か増資も重要。

成長性を高めるための
キーワード

1. 地域オンリーワンへの戦略の実行
2. 中期的視点に立ってビジョンを確立する
3. 社員への経営理念の浸透を図る
4. 商品・サービスの開発力を強化する
5. 社員の教育・訓練を計画的に実施する

■ ... 今回
■ ... 前回
■ ... 前々回

今回決算におけるキャッシュフローの結果

A	営業キャッシュフロー		-75,131	千円
B	投資キャッシュフロー		-9,069	千円
	フリーキャッシュフロー	A+B	(-84,200)	千円
C	財務キャッシュフロー		190,722	千円
	上積みキャッシュ高	A+B+C	(106,522)	千円

<ポイント①>

「利益」≠「資金(キャッシュ)」

「利益」と「資金(キャッシュ)」は、多くの場合、一致することはありません。よく言われる『勘定合って、銭足らず』とは、このことを指します。

営業キャッシュフロー

営業キャッシュフローとは、本業としての営業内容で、いくら資金(キャッシュ)を獲得したかを示します。つまり、会社の資金の源泉です。この資金で、設備投資や借入金の返済をしていくこととなります。そのため、最も重要な項目です。

$$\text{営業キャッシュフロー} = \text{税引前当期利益} + \text{減価償却費} \pm \text{調整項目}$$

で、算出されます。

	期首からの増減	営業CF	何故か? (期首と比較して…)
売上債権	★ 増	▲	売掛金等が増え、代金が未入金だから
	減	+	売掛金等が減り、その分 代金が入金されたから
買入債務	★ 増	+	買掛金等が増え、代金の支払いがまだだから
	減	▲	買掛金等が減り、その分 代金を支払ったから
棚卸資産	★ 増	▲	在庫が増えたので、資金が減ったから
	減	+	在庫が減って、資金化されたから

なお、減価償却費は現金支出を伴わない経費です。設備や車両などの購入時に既に支出しており、減価償却費の計上時には、資金の流出はないので、収支上は「利益にプラス」することとなります。

CHECK!! ~ 御社の今回決算は ~

プラスの場合、本業で資金を増やす内容の1年であったこととなります。1年間で獲得した資金が多いほど、事業活動がうまくいっていることを示します。

★ マイナスの場合、本業で資金を減らしてしまった内容の1年であったこととなります。マイナス傾向が続くと、本業で資金を減らしている事になるので要注意です。

投資キャッシュフロー

投資キャッシュフローとは、設備投資（建物・機械・車両など）や保険積立、定期性預金などの資金変動を示します。将来のための「投資」は必要不可欠です。

CHECK！！ ～ 御社の今回決算は～

プラスの場合、固定資産の処分（売却）、保険積立金や定期性預金の解約などが考えられます。



マイナスの場合、設備投資などに資金を投じたことを示します。

フリーキャッシュフロー

フリーキャッシュフローとは、上記の「営業キャッシュフロー」と「投資キャッシュフロー」の合計額です。営業活動で得た資金（営業キャッシュフロー）で、投資活動（投資キャッシュフロー）を賄うことが、最も理想的です。

財務キャッシュフロー

財務キャッシュフローとは、借入金や資本金の増減による資金変動を示します。

CHECK！！ ～ 御社の今回決算は～



プラスの場合、借入金や資本金を増やし、設備投資や資金繰りに充当しました。

マイナスの場合、借入金が増え、安心感が減りました。

上積みキャッシュ高

上積みキャッシュ高とは、1年間で資金が増えたか減ったかを表します。資金は、会社の「血液」です。

CHECK！！ ～ 御社の今回決算は～



プラスの場合、文字通り1年間で資金が増えたこととなります。

マイナスの場合、文字通り1年間で資金が減ったこととなります。

<ポイント②>

営業キャッシュフローと 上積みキャッシュ高のココがツボ!

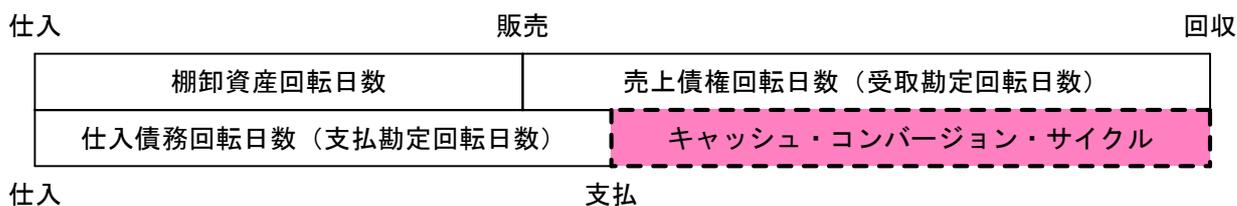
営業キャッシュフロー 上積み キャッシュ高	プラス	マイナス
プラス	良 好	注 意
マイナス	確 認	要 注 意

で塗られた位置が、御社の今回の位置となります。

良 好	本業で資金増加しており、結果として1年間の資金も増えています。理想的です。
確 認	本業では資金増加となっているが、資金は減っている。何故か？ → 借入金を返済したのでは？あるいは、設備投資に充てたのでは？ 保険積立や株式投資などに充てたのでは？…となります。
★ 注 意	本業では資金減少となっているが、資金は増えている。何故か？ → 借入金で補ったのでは？… となります。
要 注 意	本業でも、上積みキャッシュ高でもマイナスとなると、資金繰りを要チェックです。原因の振り返りと改善策の検討が必要です。

キャッシュ・コンバージョン・サイクル(CCC)

キャッシュ・コンバージョン・サイクルとは、仕入から販売に伴う現金回収までの日数を示し、この日数が小さいほど現金回収サイクルが早いことを意味します。



キャッシュ・コンバージョン・サイクルは、以下の算式で求められ、
 = 棚卸資産回転日数 + 売上債権回転日数 - 仕入債務回転日数

今回の決算では(72.5)日 で、
 前回の決算より(3.1)日 長くなりました。

	棚卸資産回転日数	売上債権回転日数	仕入債務回転日数	キャッシュ・コンバージョン・サイクル
前回	59.1 日	41.5 日	31.2 日	69.4 日
今回	63.1 日	39.4 日	30.0 日	72.5 日

キャッシュフロー改善のポイント

① 業績（利益）を上げる

税引前利益＋減価償却費＝（ 26,119 千円を増加させるための工夫が最優先。
（税引前利益＋減価償却費の合計金額は、最も簡単に資金余裕額を計算する公式です。）
これを増加させるためには、業績（利益）のアップが必要です。

- | | | |
|---------------------------|--------|--------------------------|
| 検討1： 固定費（人件費・金利・諸経費など）の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討2： 変動費（仕入・外注費）の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討3： 売上高の増加 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |

② 資産の見直し

棚卸資産・売掛金・貸付金など、現金以外の資産の削減は必要です。

- | | | |
|------------------------|--------|--------------------------|
| 検討4： 棚卸資産の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討5： 売掛金・受取手形など売上債権の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討6： 貸付金などの削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |

③ 負債の見直し

前受金を増やすことが必要です。負債科目の中で唯一の将来売上高に変わる項目です。
このためには、信用の充実が必要となるでしょう。

- | | | |
|-------------|--------|--------------------------|
| 検討7： 前受金の増加 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
|-------------|--------|--------------------------|

④ 資本の増資・役員借入金で資金調達をする

将来返済しなくてもよい資金から調達する。一番良いのは、資本の増資。支払手形での調達は、最終手段です。

- | | | |
|----------------------|--------|--------------------------|
| 検討8： 資本の増資・役員借入金での調達 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討9： 長期借入金の増加 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |

⑤ 投資は最小限の資金で行なっているか？

本当に必要な投資であるかどうか。

- | | | |
|----------------------------|--------|--------------------------|
| 検討10： 不必要な設備投資の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討11： 不要な設備（遊休資産）の売却 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |
| 検討12： 固定性預金の積立、有価証券等の購入の削減 | 検討チェック | <input type="checkbox"/> |

以上の12の検討事項をチェックして、
御社にあった資金改善策を実行してください。